

令和 4 年

香川県の賃金・労働時間及び雇用

—毎月勤労統計調査地方調査結果報告書—

かがやくけん、かがわけん。

香川県

目 次

毎月勤労統計調査地方調査の説明	1
-----------------	---

調査結果の概要

I 概 況	10
II-1 賃金の動き	11
II-2 産業別にみた賃金	13
II-3 賞与の支給状況	15
III-1 労働時間の動き	16
III-2 産業別にみた労働時間	18
IV-1 雇用の動き	20
IV-2 産業別にみた雇用	23

統計表

※統計表については「香川県統計情報データベース」に掲載。

- ① 第1-1表 産業、性別 給与額 (5人以上)
- ② 第1-2表 産業、性別 給与額 (30人以上)
- ③ 第2-1表 産業、性別 労働時間 (5人以上)
- ④ 第2-2表 産業、性別 労働時間 (30人以上)
- ⑤ 第3-1表 産業、性別 就業形態別 雇用 (5人以上)
- ⑥ 第3-2表 産業、性別 就業形態別 雇用 (30人以上)
- ⑦ 第4-1, 2表 就労形態別 賃金・労働時間及び雇用
- ⑧ 第5表 産業別労働異動率 (月間入職率・離職率)
- ⑨ 第6表 賞与の支給状況 (30人以上)
- ⑩ 指数表 5人以上
- ⑪ 指数表 30人以上
- ⑫ 参考表 小規模事業所の賃金・労働時間及び労働者数

毎月勤労統計調査地方調査の説明

1 調査の目的

この調査は、統計法に基づく基幹統計として、賃金、労働時間及び雇用について、香川県における毎月の変動を明らかにすることを目的としている。

2 調査の対象

この調査は、日本標準産業分類に定める「鉱業、採石業、砂利採取業」、「建設業」、「製造業」、「電気・ガス・熱供給・水道業」、「情報通信業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」、「不動産業、物品賃貸業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業（その他の生活関連サービス業のうち家事サービス業を除く）」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」、「複合サービス事業」、「サービス業（他に分類されないもの）（外国公務を除く）」に属し、5人以上の常用労働者を雇用する事業所の中から抽出された約600事業所について行っている。

3 調査の期間と方法

調査期間は1か月を単位としており、前月の最終給与締切日の翌日から当月の最終給与締切日までの間である。

また、この調査は、規模（常用労働者）5～29人の事業所（第二種事業所）は実地他計方式（統計調査員が事業主に質問し、調査票を作成する方式）またはオンライン方式により、また、規模30人以上の事業所（第一種事業所）は郵送調査方式またはオンライン方式により行っている。

4 用語の解説

(1) 賃 金

- ・ 「現金給与」とは、賃金、給料、手当、賞与その他名称を問わず、労働の対償として使用者が労働者に通貨で支払うものであり、所得税、社会保険料等を差し引く前の金額をいう。退職金は含めない。
- ・ 「現金給与総額」とは、「きまって支給する給与」と「特別に支払われた給与」との合計額である。
- ・ 「きまって支給する給与」とは、労働協約、就業規則等によってあらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与等の各種手当を含む。
- ・ 「所定内給与」とは、「きまって支給する給与」のうち「超過労働給与」以外のものをいう。
- ・ 「超過労働給与」とは、所定の労働時間を超える労働に対して支給される給与や、休日労働、深夜労働に対して支給される給与のことであり、時間外手当、早朝出勤手当、休日出勤手当、深夜手当等である。
- ・ 「特別に支払われた給与」とは、労働協約、就業規則等によらず、一時的又は突発的事由に基づき労働者に支払われた給与又は労働協約、就業規則等によりあらかじめ支給条件、算定方法が定められている給与で以下に該当するものである。

イ. 夏冬の賞与、期末手当等の一時金

ロ. 支給事由の発生が不定期なもの

ハ. 3か月を超える期間で算定される手当等(6か月分支払われる通勤手当など)

ニ. いわゆるベースアップの差額追給分

- ・ 「実質賃金指数(現金給与総額、きまって支給する給与)」とは、「現金給与総額指数」と「きまって支給する給与指数」のそれぞれから、物価の影響を除いたものとなっており、賃金の実質的購買力をあらわす指数である。

(2)実労働時間、出勤日数

- ・ 「実労働時間」とは、調査期間中に労働者が実際に労働した時間数である。有給休暇をはじめとした休憩時間は、給与が支給されると否とにかかわらず除かれるが、運輸関係労働者等に見られる手待時間は含める。本来の職務外として行われる宿日直の時間は含まれない。
- ・ 「総実労働時間」とは、「所定内労働時間」と「所定外労働時間」との合計である。
「年間総実労働時間」は「総実労働時間」に12か月を掛けて計算している。
- ・ 「所定内労働時間」とは、労働協約、就業規則等で定められた正規の始業時刻と終業時刻との間の実労働時間数である。
- ・ 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の実労働時間数である。
- ・ 「出勤日数」とは、調査期間中に労働者が実際に出勤した日数である。有給であっても事業所に出勤しない日は出勤日にはならないが、1日のうち1時間でも出勤すれば出勤日となる。
2歴日にわたって働いた場合、出勤日数は2出勤日となる。また、1日に二度出勤したときは1出勤日となる。

(3)常用労働者

- ・ 「常用労働者」とは、事業所に雇用され給与の支払いを受ける者のうち、次のいずれかに該当する労働者である。
 - イ. 期間を定めず、または1か月以上の期間を定めて雇われている者
 - ロ. 重役、理事などの役員のうち、部長、工場長などのように、常時勤務して一定の業務に従事し、毎月給与の支払いを受けている者
 - ハ. 事業主の家族でその事業所に働いている人のうち、常時勤務し、他の労働者と同じ就業規則等に従い、毎月給与の支払いを受けている者
- ・ 「パートタイム労働者」とは、常用労働者のうち次のいずれかに該当する労働者のことである。
 - イ. 1日の所定労働時間が一般の労働者よりも短い者
 - ロ. 1日の所定労働時間が一般の労働者と同じで1週の所定労働日数が一般の労働者よりも少ない者
- ・ 「パートタイム労働者比率」とは、調査期間末の全常用労働者に占めるパートタイム労働者の割合を百分率化したものである。

(4)労働異動率

「労働異動率」とは、事業所における雇用の流動状況を示す指標である。

- ・ 「入職率」とは、調査期間中に採用、出向及び同一企業内の他の事業所からの転勤等に

よって当該事業所に入職した常用労働者数を、前調査期間末の全常用労働者数で除し、百分率化したものである。

- ・ 「離職率」とは、調査期間中に解雇、退職、出向及び同一企業内の他の事業所への転勤等によって当該事業所を離職した常用労働者数を、前調査期間末の全常用労働者数で除し、百分率化したものである。

(5) 賞 与

- ・ 「賞与支給額」とは、6月、7月、8月の3か月間（夏季）及び11月、12月、翌年1月の3か月間（冬季）に支給された「特別に支払われた給与」の中から賞与、期末手当等を抜き出して、夏季及び冬季毎に各月分を合計したものを賞与の支給を行った規模30人以上の事業所の常用労働者1人平均（賞与を支給されなかった者を含む。）として集計したものである。
- ・ 「賞与支給月数（対きまって支給する給与、対所定内給与）」とは、賞与を支給した事業所における賞与の支給総額を1か月平均のきまって支給する給与または所定内給与の支給総額で除したものである。

5 調査結果の算定式

(1) 実 数

- ・ 推計比率

推計比率は、本月分の推計に用いる前月末母集団労働者数（直近の経済センサス基礎調査の労働者数を毎月の労働者の増減により更新したもの。）と、本月分の調査事業所の前月末調査労働者数の合計の比率のことで、産業、規模別に次式によって定める。

$$r = E / e_0$$

r : 推計比率（産業、規模別）

E : 前月末母集団労働者数（産業、規模別）

e₀ : 前月末調査労働者数の合計（産業、規模別）

- ・ 産業、規模別各種平均値の推計方法

本調査の結果のうち、産業、規模別1人平均月間現金給与額、実労働時間数及び出勤日数は、調査事業所の現金給与額の支払総額、延べ実労働時間数、延べ出勤日数のおのおのの合計を、前月末労働者数の合計と本月末労働者数の合計との平均で除して求める。

$$\bar{a} = \frac{a}{(e_0 + e_1) / 2}$$

\bar{a} : 各種平均値

a : 各種調査数値の合計

e₀, e₁ : 前月末及び本月末調査労働者数（いずれも本月分調査票）

- ・ 産業計及び規模計の各種平均値の推計方法

産業計、規模計の各種平均値は、産業、規模別の調査事業所の現金給与支給総額、延べ実

労働時間数及び延べ出勤日数の各合計値に推計比率（上記のr）を乗じ、それを産業又は規模について合計した値を、同様にして計算した前月末推計労働者数と本月末推計労働者数との平均で除して求める。

$$\bar{A} = \frac{\Sigma (a \cdot r)}{\{ \Sigma (e_0 \cdot r) + \Sigma (e_1 \cdot r) \} / 2}$$

- A : 各種平均値
- a : 各種調査数値の合計（産業，規模別）
- e₀, e₁ : 前月末及び本月末調査労働者数（産業，規模別）
- r : 推計比率（産業，規模別）
- Σ : 産業又は規模について合計をとることを示す記号

- ・ 常用労働者数に関する推計値の推計方法

$$B = \Sigma (e \cdot r)$$

- B : 推計値
- e : 本月末調査労働者数（産業，規模別）
- r : 推計比率（産業，規模別）
- Σ : 産業又は規模について合計をとることを示す記号

(2) 指数

- ・ 各月の指数 = 各月の調査結果の実数 / 基準数値 × 100
基準数値とは、指数 = 100に対応する実数値である。

- ・ 各月の実質賃金指数 = 各月の名目賃金指数 / 各月の消費者物価指数 × 100
(消費者物価指数は「持家の帰属家賃を除く総合(高松市)」を指す。)

- ・ 年平均指数 = 1～12月の指数の合計 / 12
なお、実質賃金指数の年平均指数については、名目賃金指数の年平均値を消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）の年平均で除して100倍したものである。

6 指数の改訂

(1) 第一種事業所（規模30人以上）抽出替えに伴うギャップ修正

本調査では、第一種事業所の抽出替え（調査事業所の総入替え）に伴い、調査結果に時系列的なギャップが生じるおそれがあるため、指数、前年比などの増減率については前回抽出替え時に遡り、修正処理（ギャップ修正）を行った。（平成27年1月にギャップ修正を実施。）なお、毎月の実数値については、修正処理を行っていないため、公表されている増減率と実数から計算した増減率は必ずしも一致しない。また、パートタイム労働者比率及び入職率・離職率はギャップ修正を行わない。

平成30年1月以降は、部分入替え方式導入に伴い、賃金及び労働時間指数について、従来行ってきたギャップ修正を行わないこととした。

(2) 指数の基準時更新

指数の基準時は、西暦年の末尾が0又は5の年に改訂するものとしており、令和2年を新しい基準時としている。（令和2年平均=100とする）

(3) ベンチマーク更新について

常用雇用指数及びその増減率は、令和4年1月分確報公表時に、労働者数推計を当時利用できる最新のデータ（平成28年経済センサス活動調査等）に基づき更新（ベンチマーク更新）し、過去に遡って改訂している。また、平成16年1月分から平成23年12月分の公表値には「時系列比較のための推計値」を使用しているが、令和4年1月のベンチマーク更新時に、平成24年1月分以降の指数が「時系列比較のための推計値」から作成された母集団労働者数と整合するよう、指数の改訂を併せて行っている。なお、令和4年1月のベンチマーク更新に伴い、令和4年の賃金と労働時間の前年同月比には一定の断層が生じている。

(参考) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/maikin-kaisetsu-20220405.pdf>

7 統計表利用上の注意

(1) この調査は、平成2年1月分調査より改正された。

従来、地方調査は規模30人以上を調査対象としていたが、この改正によって規模5～29人も地方調査の対象となり、調査結果も規模30人以上に加え、規模5人以上として公表している。

(2) 統計表中の数値は四捨五入しており、個々の数値の合計欄の数値とは一致しない場合がある。

(3) 統計表において、調査事業所数が少ないため公表していないものがあるが、調査産業計などにはこれらを含めている。

(4) 平成29年の調査から、平成25年10月に改定された日本標準産業分類に基づいて集計を行っている。

(5) 全国調査結果については、厚生労働省「毎月勤労統計調査」の再集計値（平成31年1月23日厚生労働省公表）及び厚生労働省「毎月勤労統計調査」の訂正值（令和元年8月26日厚生労働省公表、令和元年10月21日厚生労働省公表）を反映している。また、令和元年6月分から「500人以上規模の事業所」について全数調査に変更されている。

(6) 統計表で用いている符号の意味は次のとおりである。

「－」…… 調査あるいは集計を行っていない。（指数については指数化していない。）

「x」…… 調査事業所が少ないため公表しない。

「△」…… 減少

「0」…… 表章単位未満

(7) 統計表の産業名のうち産業大分類及び製造業産業中分類等について次のような略称を用いた。

(例) M 飲食サービス業等……………産業大分類「宿泊業，飲食サービス業」

E28 電子・デバイス……………産業中分類「電子部品・デバイス・電子回路製造業」

略 称		<産業大分類>		略 称		<E 製造業 産業中分類>	
C	鉱業，採石業等	鉱業，採石業，砂利採取業	E31	輸送用機械器具	31	輸送用機械器具製造業	
D	建設業	建設業	ES1	E－括分1	22	鉄鋼業	
E	製造業	製造業			23	非鉄金属製造業	
F	電気・ガス業	電気・ガス・熱供給・水道業	ES2	E－括分2	28	電子部品・デバイス・電子回路製造業	
G	情報通信業	情報通信業			30	情報通信機械器具製造業	
H	運輸業，郵便業	運輸業，郵便業	ES3	E－括分3	11	繊維工業	
I	卸売業，小売業	卸売業，小売業			16	化学工業	
J	金融業，保険業	金融業，保険業			17	石油製品・石炭製品製造業	
K	不動産・物品賃貸業	不動産業，物品賃貸業			19	ゴム製品製造業	
L	学術研究等	学術研究，専門・技術サービス業			20	なめし革・同製品・毛皮製造業	
M	飲食サービス業等	宿泊業，飲食サービス業			32	その他の製造業	
N	生活関連サービス等	生活関連サービス業，娯楽業	略 称		<I 卸売業，小売業 産業中分類>		
O	教育，学習支援業	教育，学習支援業	I-1	卸売業	50～55	卸売業	
P	医療，福祉	医療，福祉	I-2	小売業	56～61	小売業	
Q	複合サービス事業	複合サービス事業	略 称		<M 飲食サービス業等 産業中分類>		
R	その他のサービス業	サービス業（他に分類されないもの）	M75	宿泊業	75	宿泊業	
略 称		<E 製造業 産業中分類>					
E09,10	食料品・たばこ	09 食料品製造業	MS	M－括分	76	飲食店	
		10 飲料・たばこ・飼料製造業			77	持ち帰り・配達飲食サービス業	
略 称		<P 医療，福祉 産業中分類>					
E12	木材・木製品	12 木材・木製品製造業（家具を除く）	P83	医療業	83	医療業	
E13	家具・装備品	13 家具・装備品製造業	PS	P－括分	84	保健衛生	
E14	パルプ・紙	14 パルプ・紙・紙加工品製造業			85	社会保険・社会福祉・介護事業	
E15	印刷・同関連業	15 印刷・同関連業			略 称		<R その他のサービス業 産業中分類>
E18	プラスチック製品	18 プラスチック製品製造業（別掲を除く）	R91	職業紹介・派遣業	91	職業紹介・労働者派遣業	
E21	窯業・土石製品	21 窯業・土石製品製造業	R92	他の事業サービス	92	その他の事業サービス業	
E24	金属製品製造業	24 金属製品製造業	RS	R－括分	88	廃棄物処理業	
E25	はん用機械器具	25 はん用機械器具製造業			89	自動車整備業	
E26	生産用機械器具	26 生産用機械器具製造業			90	機械等修理業（別掲を除く）	
E27	業務用機械器具	27 業務用機械器具製造業			93	政治・経済・文化団体	
E29	電気機械器具	29 電気機械器具製造業			94	宗教	
					95	その他のサービス業	

毎月勤労統計調査の沿革

	(調査名)	(実施主体)	(対象範囲及び数)
大正12年 7月	職工賃銀毎月調査 鉱夫賃銀毎月調査	内務省社会局	北海道ほか22府県における工場及び東京鉱務署ほか4鉱務署管内における鉱山合計 510所
大正14年 4月	賃銀毎月調査	内閣統計局	29府県の工場、鉱山
昭和2年 1月	官公営工場と交通関係事業体を調査対象に追加		
昭和14年 6月	労働統計毎月実地調査	内閣統計局	33府県における工場、鉱山、交通関係事業体約 7,200所
昭和16年 8月	労働統計毎月調査	内閣統計局	全府県における工場、鉱山、交通関係事業体約 4,700所
昭和19年 7月	毎月勤労統計調査	内閣統計局	全府県における工場、鉱山、交通関係事業体約 8,900所
昭和21年12月	百貨店、銀行、信託業、保険業を調査対象に追加 電気、ガス、水道業が工場より分離		
昭和22年 7月	指定統計第7号に指定		
昭和23年 9月	調査の企画立案公表の権限を労働省に移管（実施は総理府統計局）		
昭和25年 1月	毎月勤労統計調査規則（労働省令）制定 標本理論を導入 産業別に異なっていた調査対象規模の下限を常用労働者30人以上に統一		
昭和25年10月	日本標準産業分類を採用 （対象産業：鉱業、製造業、卸売及び小売業、金融業及び保険業、不動産業、運輸通信及びその他公益事業）		
昭和26年 4月	毎月勤労統計調査 全国調査 地方調査	調査を労働省に全面移管 地方調査開始	
昭和27年 1月	建設業を調査対象に追加		
昭和29年 3月	サービス業の一部（「自動車修理業及びガレージ業」、「その他の修理業」及び		

「医療保険業」) を調査対象に追加

昭和32年 7月

乙調査と特別調査開始

毎月勤労統計調査 全国調査甲調査 " " 乙調査	常用労働者30人以上事業所	約 9,300事業所
	常用労働者5～29人事業所	905調査区 約10,000事業所
地方調査	常用労働者30人以上事業所	約18,500事業所
特別調査	常用労働者1～4人事業所	1,810調査区 約10,000事業所

昭和46年 1月

サービス業の範囲を「家事サービス業」と「外国公務」を除く全体に拡大

昭和47年 7月

沖縄県を調査対象に追加

昭和55年 7月

特別調査を拡充

毎月勤労統計調査 全国調査甲調査 " " 乙調査	常用労働者30人以上事業所	約16,700事業所
	常用労働者5～29人事業所	1,914調査区 約16,500事業所
地方調査	常用労働者30人以上事業所	約22,000事業所
特別調査	常用労働者1～29人事業所	4,750調査区 約 134,000事業所

平成2年 1月

甲調査・乙調査の統合と地方調査の拡充

毎月勤労統計調査 全国調査	常用労働者5人以上	約33,200事業所
	うち 30人以上	約16,700事業所
	5～29人	1,914調査区 約16,500事業所
地方調査	常用労働者5人以上	約43,500事業所
	うち 30人以上	約21,500事業所
	5～29人	2,561調査区 約22,000事業所
特別調査	常用労働者1～4人	4,750調査区 約77,000事業所

平成5年 1月

常用労働者数中のパートタイム労働者の給与・労働時間等の調査項目を新設

平成17年 1月

平成14年3月改定の日本標準産業分類に基づく集計、公表開始

平成21年 4月

基幹統計に指定される

平成22年 1月

平成19年11月改定の日本標準産業分類に基づく集計、公表開始
(特別調査は平成21年調査から)

平成29年 1月

平成25年10月改定の日本標準産業分類に基づく集計、公表開始

平成30年 1月

第一種事業所の部分入替え方式の導入

平成31年 1月

毎月勤労統計調査における不適切な取扱いを公表

令和4年 1月

毎月勤労統計調査の調査系統の適正化



統計法に基づく基礎統計調査

毎月勤労統計調査調査票



厚生労働省

1 主要な生産品又は事業の内容は何ですか。
(主要なものとは、総収入の最も多いものです。)

2 調査期間はいつからいつまででしたか。(前月の最終給与締切日の翌日から、本月の最終給与締切日までの1ヵ月間です。)

3 調査期間中に事業活動を行った日数は何日でしたか。

4 企業の全常用労働者数は何人ですか。該当の番号を○で囲んでください。(「資企業(同一会社)」に属する事業所のすべてに雇用される常用労働者数です。)

1	1,000人以上
2	300～999人
3	100～299人
4	30～99人
5	5～29人

----- 年 月 日から 年 月 日まで

都道府県番号

事業所一連番号

産業分類番号

抽出番号

※事業所別番号

※企業別番号

※ 印欄は記入しないでください。

常用労働者についてはお答えください。常用労働者とは、期間を定めず、又は1ヵ月の超える期間を定めて雇われている者をいいます。事業主又は法人の代表者、無給の家族従業者は除きます。

パートタイム労働者とは、常用労働者のうち、1日の所定内労働時間が一般の労働者よりも短い者及び1日の所定労働時間が一般の労働者と同じで週に所定労働時間が一般の労働者より少ない者です。

常用労働者の性別	5 常用労働者数			7 実労働時間数 (休憩時間は含まないでください)		8 現金給与額 (税込み額です。)		
	(1) 前調査期間の末日は何人でしたか。	(2) 採用、退職、転勤等による増加は何人でしたか。	(3) 解雇、退職、転勤等による減少は何人でしたか。	(4) 本調査期間の末日は何人でしたか。	(1) 所定内労働時間の合計は何時間か。	(2) 所定外労働時間の合計は何時間か。	(3) 特別に支払われた給与の総額はいくらでしたか。(労働協約、就業規則等に定められていない場合は、深夜手当等です。)	(4) 左の特別に支払われた給与の名称及び名称別の金額を記入してください。
男	人	人	人	人	時間	時間	百万 千円	百万 千円
女	人	人	人	人	時間	時間	百万 千円	百万 千円
計	人	人	人	人	時間	時間	百万 千円	百万 千円
うち、パートタイム労働者	人	人	人	人	時間	時間	百万 千円	百万 千円

9 変動状況 (調査期間中に、次のことがあった場合は該当事項の数字を○で囲み、右の備考欄にその略略を記入してください。)

1	定昇を実施した。
2	ベースアップを実施した。
3	休業短縮、一時休業を実施した。
4	休日に就業、営業等の事業活動を行った。
5	制度上の週所定労働時間の短縮を実施した。
6	夏休みなど、週以外の休日を増やした。

10 備考 (本月分の報告内容と前月分の間に著しい違いがある場合は、その理由を記入してください。)

この調査票は、10日までに総務省の統計主管課へ提出してください。

この調査票は、統計法に基づく基礎統計を作成するために発行されます。

この調査票の作成のために統計法に基づく報告の義務があり、報告の拒否や虚偽報告については罰則があります。

この調査の実施に当たっては、特に必要がある場合には、資料の提出のお願いや関係者の方々への質問を行うことがあります。

調査結果の概要

香川県の賃金、労働時間及び雇用の動き

I 概況

香川県における令和4年の賃金、労働時間及び雇用の概況は、次のとおりである。

事業所規模 常用労働者5人以上

(1) 賃金の動き

常用労働者1人平均月間現金給与総額は302,103円で、前年比2.4%の増加となった。

このうち、きまって支給する給与は249,258円で前年比0.9%の増加、特別に支払われた給与は52,845円で前年差5,231円の増加となった。

(2) 労働時間の動き

常用労働者1人平均月間総実労働時間は139.3時間で、前年比2.3%の減少となった。

このうち、所定内労働時間は128.9時間で前年比2.9%の減少、所定外労働時間は10.4時間で前年比6.2%の増加となった。

常用労働者1人平均月間出勤日数は18.3日で、前年差0.2日の減少となった。

(3) 雇用の動き

常用労働者数は349,122人で、前年比1.3%の増加となった。

パートタイム労働者比率は32.0%で、前年差2.0ポイントの上昇となった。

事業所規模 常用労働者30人以上

(1) 賃金の動き

常用労働者1人平均月間現金給与総額は335,321円で、前年比6.6%の増加となった。

このうち、きまって支給する給与は272,655円で前年比5.5%の増加、特別に支払われた給与は62,666円で前年差7,196円の増加となった。

(2) 労働時間の動き

常用労働者1人平均月間総実労働時間は142.5時間で、前年比1.6%の減少となった。

このうち、所定内労働時間は131.0時間で前年比1.8%の減少、所定外労働時間は11.5時間で前年比1.9%の増加となった。

常用労働者1人平均月間出勤日数は18.3日で、前年差0.1日の減少となった。

(3) 雇用の動き

常用労働者数は190,237人で、前年比2.4%の増加となった。

パートタイム労働者比率は27.7%で、前年差0.3ポイントの低下となった。

II-1 賃金の動き

-事業所規模5人以上- (第1表、第1~4図)

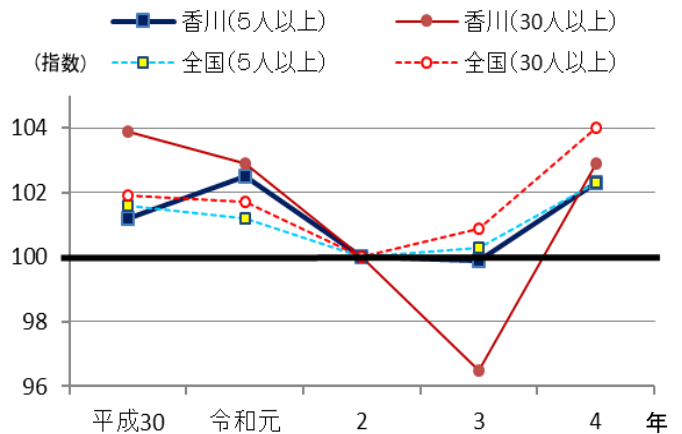
香川県における事業所規模5人以上の現金給与を調査産業計で見ると、現金給与総額は302,103円で前年比2.4%の増加となった。また高松市の消費者物価指数(持ち家の帰属家賃を除く総合)を考慮した実質賃金指数では、前年比0.1%の減少となった。

現金給与総額のうち、きまって支給する給与は249,258円で前年比0.9%の増加、所定内給与は230,534円で前年比0.4%の増加となった。

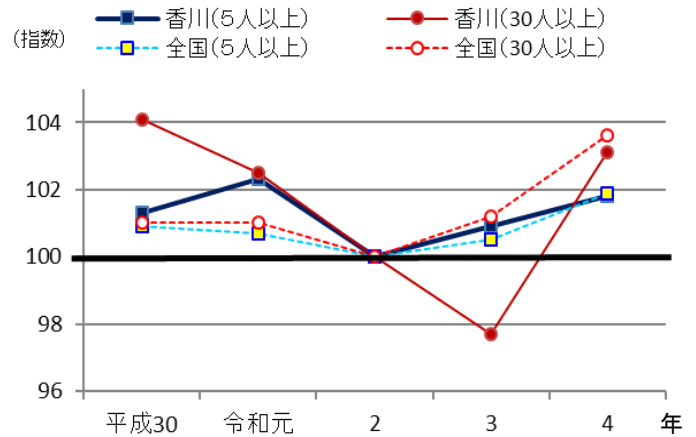
前年比の推移をみると、現金給与総額は3年ぶりの増加、きまって支給する給与は2年連続増加、所定内給与は2年連続増加となった。

全国の現金給与総額は325,817円で前年比2.0%の増加、きまって支給する給与は267,461円で前年比1.4%の増加、所定内給与は248,529円で前年比1.1%の増加となった。また、全国の現金給与総額を100としたときの香川県の現金給与総額は92.7で、格差は前年(92.2)に比べて0.5ポイント縮小している。

第1図 現金給与総額指数の推移(調査産業計)
(令和2年=100)



第2図 きまって支給する給与指数の推移(調査産業計)
(令和2年=100)



第1表 賃金の推移(調査産業計:事業所規模5人以上)

区分	年	現金給与総額					きまって支給する給与			所定内給与			特別に支払われた給与	
		実数	指数	前年比	実質賃金指数	前年比	実数	指数	前年比	実数	指数	前年比		超過労働給与
		円		%		%	円		%	円		%	円	円
香川県	平成30	298,733	101.2	1.5	101.5	0.2	247,966	101.3	1.7	228,584	99.7	1.4	19,382	50,767
	令和元	302,931	102.5	1.3	102.2	0.8	250,519	102.3	1.0	231,304	100.9	1.2	19,215	52,412
	2	295,115	100.0	△2.4	100.0	△2.3	244,928	100.0	△2.2	229,236	100.0	△0.9	15,692	50,187
	3	294,694	99.9	△0.1	100.3	0.3	247,080	100.9	0.9	229,657	100.2	0.1	17,423	47,614
	4	302,103	102.3	2.4	100.2	△0.1	249,258	101.8	0.9	230,534	100.6	0.4	18,724	52,845
全国	平成30	323,547	101.6	1.4	102.1	0.2	264,570	100.9	0.9	244,670	99.9	0.8	19,900	58,977
	令和元	322,552	101.2	△0.4	101.2	△1.0	264,180	100.7	△0.2	244,432	99.8	△0.1	19,748	58,372
	2	318,405	100.0	△1.2	100.0	△1.2	262,325	100.0	△0.7	244,968	100.0	0.2	17,357	56,080
	3	319,461	100.3	0.3	100.6	0.6	263,739	100.5	0.5	245,709	100.3	0.3	18,030	55,722
	4	325,817	102.3	2.0	99.6	△1.0	267,461	101.9	1.4	248,529	101.4	1.1	18,932	58,356

注:全国における令和元年の値については、修正があったため最新の値に更新している。

(指数:令和2年平均=100)

-事業所規模 30 人以上- (第2表、第1~4図)

香川県における事業所規模 30 人以上の現金給与を調査産業計で見ると、現金給与総額は 335,321 円で前年比 6.6%の増加となった。また、高松市の消費者物価指数(持ち家の帰属家賃を除く総合)を考慮した実質賃金指数では、前年比 4.0%の増加となった。

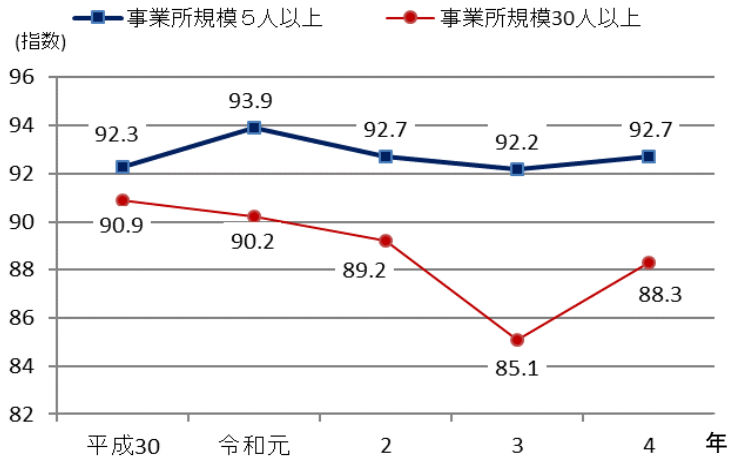
現金給与総額のうち、きまって支給する給与は 272,655 円で前年比 5.5%の増加、所定内給与は 249,380 円で前年比 5.5%の増加となった。

前年比の推移をみると、現金給与総額は 4 年ぶりの増加、きまって支給する給与は 4 年ぶりの増加、所定内給与は 4 年ぶりの増加となった。

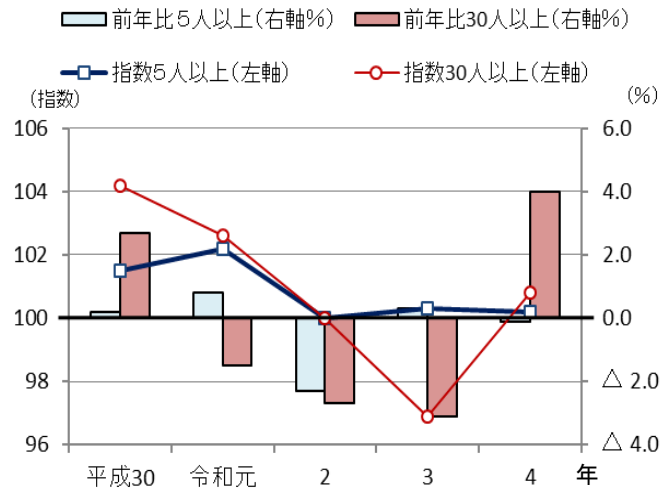
全国の現金給与総額は 379,732 円で前年比 3.1%の増加、きまって支給する給与は 303,496 円で前年比 2.4%の増加、所定内給与は 278,687 円で前年比 2.0%の増加となった。

また、全国の現金給与総額を 100 としたときの香川県の現金給与総額は 88.3 で、格差は前年 (85.1) に比べて 3.2 ポイント縮小している。

第3図 全国を100とした香川の賃金の推移(調査産業計)



第4図 実質賃金指数(現金給与総額)の推移(調査産業計)
(令和2年=100)



第2表 賃金の推移 (調査産業計：事業所規模30人以上)

区分	年	現金給与総額					きまって支給する給与						特別に支払われた給与	
		実数	指数	前年比	実質賃金		実数	指数	前年比	所定内給与				超過労働給与
					指数	前年比				実数	指数	前年比		
香川県	平成30	338,138	103.9	4.0	104.2	2.7	275,130	104.1	3.9	252,609	102.8	4.0	22,521	63,008
	令和元	335,182	102.9	△ 1.0	102.6	△ 1.5	271,073	102.5	△ 1.6	247,559	100.9	△ 1.9	23,514	64,109
	2	325,570	100.0	△ 2.8	100.0	△ 2.7	264,357	100.0	△ 2.5	245,621	100.0	△ 0.9	18,736	61,213
	3	313,745	96.5	△ 3.5	96.9	△ 3.1	258,275	97.7	△ 2.2	236,172	96.2	△ 3.8	22,103	55,470
	4	335,321	102.9	6.6	100.8	4.0	272,655	103.1	5.5	249,380	101.5	5.5	23,275	62,666
全国	平成30	372,162	101.9	1.2	102.4	0.0	295,944	101.0	0.7	270,694	99.9	0.7	25,250	76,218
	令和元	371,408	101.7	△ 0.2	101.7	△ 0.8	296,064	101.0	0.1	270,847	99.9	0.1	25,217	75,344
	2	365,100	100.0	△ 1.7	100.0	△ 1.7	293,056	100.0	△ 1.1	271,025	100.0	0.1	22,031	72,044
	3	368,493	100.9	1.0	101.2	1.2	296,652	101.2	1.2	273,186	100.8	0.8	23,466	71,841
	4	379,732	104.0	3.1	101.3	0.1	303,496	103.6	2.4	278,687	102.8	2.0	24,809	76,236

注：全国における令和元年の値については、修正があったため最新の値に更新している。

(指数：令和2年平均=100)

Ⅱ-2 産業別にみた賃金

-事業所規模5人以上- (第3表、第5-1図)

香川県における事業所規模5人以上の現金給与を産業別にみると、現金給与総額は「教育、学習支援業」(前年比17.1%増)など10産業が増加し、「卸売業、小売業」(前年比4.7%減)など3産業が減少した。

超過労働給与は、「運輸業、郵便業」(前年差8,191円増)など7産業が増加し、「金融業、保険業」(前年差5,893円減)など6産業が減少した。

特別に支払われた給与は、「学術研究等」(前年差28,065円増)など10産業が増加し、「医療、福祉」(前年差2,685円減)など3産業が減少した。

第3表 産業別に見た賃金 (事業所規模5人以上)

産 業	現金給与総額		きまって支給する給与						特別に支払われた給与	
			支給する給与		所定内給与		超過労働給与		支払われた給与	
	実 数	前年比	実 数	前年比	実 数	前年比	実 数	前年差	実 数	前年差
	円	%	円	%	円	%	円	円	円	円
調 査 産 業 計	302,103	2.4	249,258	0.9	230,534	0.4	18,724	1,301	52,845	5,231
鉱業、採石業等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	446,960	9.0	360,254	4.1	331,833	3.0	28,421	4,356	86,706	23,159
製造業	339,463	5.3	274,380	3.0	246,015	1.4	28,365	4,394	65,083	10,376
電気・ガス業	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
情報通信業	487,633	2.4	366,537	1.3	329,840	1.9	36,697	△ 1,434	121,096	8,119
運輸業、郵便業	289,575	4.1	260,157	3.1	220,855	△ 0.1	39,302	8,191	29,418	3,471
卸売業、小売業	261,518	△ 4.7	219,333	△ 4.8	207,833	△ 4.7	11,500	△ 832	42,185	△ 1,946
金融業、保険業	444,827	2.6	345,168	1.8	324,833	4.0	20,335	△ 5,893	99,659	4,087
不動産・物品賃貸業	267,906	△ 0.1	229,260	△ 2.8	212,046	△ 4.1	17,214	2,715	38,646	6,932
学術研究等	448,140	16.6	337,969	11.6	318,152	12.0	19,817	1,102	110,171	28,065
飲食サービス業等	118,521	3.9	110,528	1.3	106,264	2.2	4,264	△ 906	7,993	3,249
生活関連サービス等	181,033	7.5	169,179	7.4	154,221	3.7	14,958	6,399	11,854	1,639
教育、学習支援業	368,925	17.1	286,229	10.5	277,804	11.0	8,425	△ 642	82,696	27,251
医療、福祉	305,574	△ 1.8	254,549	△ 1.1	237,585	△ 2.3	16,964	2,646	51,025	△ 2,685
複合サービス事業	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
その他のサービス業	223,359	1.0	197,997	2.8	183,662	4.5	14,335	△ 2,554	25,362	△ 2,600
全 国	325,817	2.0	267,461	1.4	248,529	1.1	18,932	902	58,356	2,634
調査産業計	451,294	4.9	359,799	3.8	336,578	4.9	23,221	△ 2,329	91,495	5,845
建設業	431,562	3.7	351,927	2.1	326,245	2.1	25,682	626	79,635	8,022
製造業	391,169	1.7	310,366	0.6	280,261	0.2	30,105	981	80,803	4,800
電気・ガス業	556,322	△ 2.9	437,719	△ 1.1	387,252	△ 1.3	50,467	△ 107	118,603	△ 10,911
情報通信業	498,722	2.3	384,656	0.8	351,956	0.7	32,700	619	114,066	8,590
運輸業、郵便業	362,988	5.3	306,516	3.5	265,581	3.7	40,935	834	56,472	7,718
卸売業、小売業	293,213	1.7	240,990	1.4	228,806	1.0	12,184	886	52,223	1,424
金融業、保険業	481,234	0.9	364,835	0.8	340,238	0.7	24,597	642	116,399	1,682
不動産・物品賃貸業	393,991	3.9	311,519	3.5	291,189	3.2	20,330	1,292	82,472	4,308
学術研究等	488,868	4.2	376,145	1.2	349,211	0.9	26,934	1,213	112,723	15,184
飲食サービス業等	128,899	9.9	121,499	9.1	115,208	7.4	6,291	2,172	7,400	1,642
生活関連サービス等	215,857	3.7	196,302	2.1	187,596	1.3	8,706	1,737	19,555	3,932
教育、学習支援業	372,131	1.3	291,537	1.4	284,832	1.3	6,705	380	80,594	680
医療、福祉	302,143	1.9	257,422	1.9	242,729	1.6	14,693	1,170	44,721	540
複合サービス事業	369,057	0.2	291,092	0.4	274,156	0.0	16,936	1,224	77,965	△ 1,052
その他のサービス業	268,445	1.6	234,295	2.0	215,850	1.8	18,445	915	34,150	△ 388

- 事業所規模 30 人以上 - (第4表、第5-2図)

香川県における事業所規模 30 人以上の現金給与を産業別にみると、現金給与総額は「生活関連サービス等」(前年比 46.7%増) など 9 産業が増加し、「飲食サービス業等」(前年比 28.7%減) など 4 産業が減少した。

超過労働給与は、「生活関連サービス等」(前年差 17,729 円増) など 8 産業が増加し、「金融業、保険業」(前年差 18,521 円減) など 5 産業が減少した。

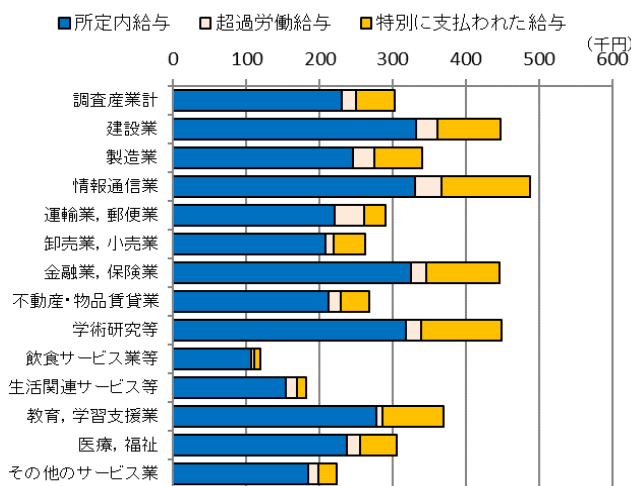
特別に支払われた給与は、「教育、学習支援業」(前年差 57,353 円増) など 8 産業が増加し、「金融業、保険業」(前年差 11,840 円減) などの 5 産業が減少した。

第4表 産業別に見た賃金 (事業所規模30人以上)

産 業	現金給与総額		きまって支給する給与						特別に支払われた給与	
	実 数	前年比	支給する給与		所定内給与		超過労働給与		実 数	前年差
			実 数	前年比	実 数	前年比	実 数	前年差		
	円	%	円	%	円	%	円	円	円	円
調査産業計	335,321	6.6	272,655	5.5	249,380	5.5	23,275	1,172	62,666	7,196
鉱業, 採石業等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	517,130	27.1	413,712	23.6	378,569	21.6	35,143	11,643	103,418	31,547
製造業	359,821	8.2	286,142	5.8	253,980	5.0	32,162	3,946	73,679	12,572
電気・ガス業	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
情報通信業	566,987	4.0	414,165	2.8	363,723	1.1	50,442	7,232	152,822	11,616
運輸業, 郵便業	303,952	△ 2.6	273,560	1.1	222,551	△ 3.6	51,009	11,019	30,392	△ 11,049
卸売業, 小売業	249,900	△ 0.4	209,346	1.1	197,376	1.1	11,970	60	40,554	△ 3,340
金融業, 保険業	497,746	△ 2.4	382,018	0.2	361,652	5.7	20,366	△ 18,521	115,728	△ 11,840
不動産・物品賃貸業	222,707	19.3	188,412	16.7	178,031	15.7	10,381	2,655	34,295	9,192
学術研究等	522,232	5.7	376,564	3.2	354,711	7.1	21,853	△ 11,738	145,668	16,730
飲食サービス業等	95,141	△ 28.7	91,446	△ 27.3	88,358	△ 27.4	3,088	△ 1,130	3,695	△ 3,790
生活関連サービス等	234,877	46.7	219,538	46.5	195,741	36.4	23,797	17,729	15,339	6,063
教育, 学習支援業	466,772	28.7	350,890	15.8	346,812	20.4	4,078	△ 10,874	115,882	57,353
医療, 福祉	334,509	0.6	276,731	2.1	257,493	1.7	19,238	1,335	57,778	△ 3,393
複合サービス事業	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
その他のサービス業	186,962	7.4	171,788	7.5	154,524	9.7	17,264	△ 1,657	15,174	1,226
全 国	379,732	3.1	303,496	2.4	278,687	2.0	24,809	1,343	76,236	4,395
製造業	423,220	1.5	328,444	0.4	293,305	0.2	35,139	768	94,776	5,366
卸売業, 小売業	351,508	4.1	278,344	3.7	263,253	3.1	15,091	1,643	73,164	3,933
医療, 福祉	351,956	1.4	295,185	1.6	274,737	1.1	20,448	1,628	56,771	337

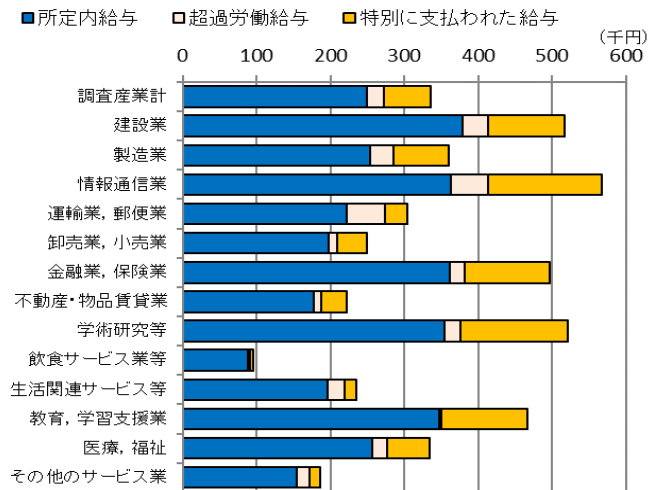
第5-1図 産業別にみた1人平均月間現金給与総額の内訳 (事業所規模5人以上)

注: 電気・ガス業及び複合サービス事業は秘匿のため値なし



第5-2図 産業別にみた1人平均月間現金給与総額の内訳 (事業所規模30人以上)

注: 電気・ガス業及び複合サービス事業は秘匿のため値なし



II-3 賞与の支給状況

-事業所規模 30 人以上- (第5表、第6図)

香川県における事業所規模 30 人以上の賞与支給額を調査産業計でみると、夏季賞与は 398,261 円で前年比 16.4%の増加、支給月数(きまって支給する給与に対して)は 1.15 月分であった。冬季賞与は 339,222 円で前年比 3.8%の減少、支給月数は 1.15 月分であった。

全国における夏季賞与は 454,152 円で前年比 3.1%の増加、冬季賞与は 458,374 円で 3.7%の増加となった。

第5表 産業別にみた賞与支給状況 (事業所規模30人以上)

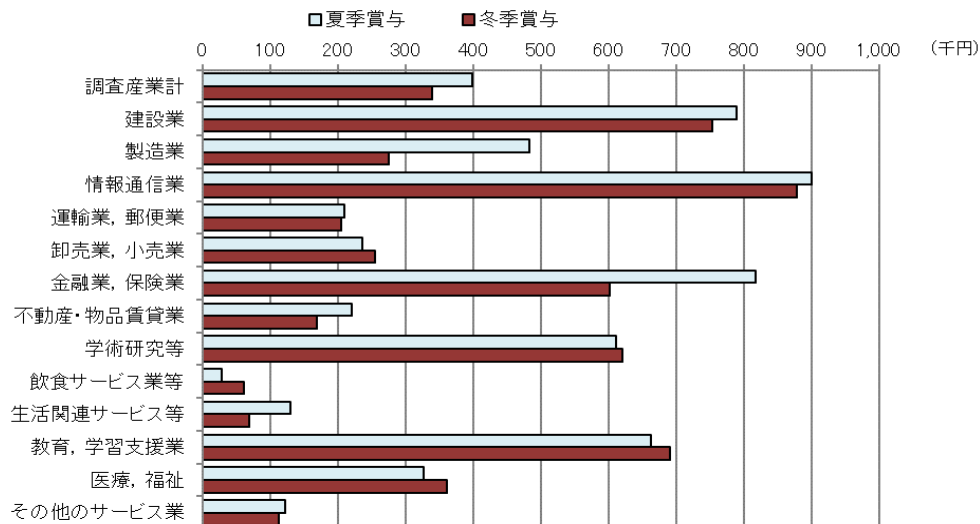
産 業	香 川 県						全 国					
	夏 季 賞 与			冬 季 賞 与			夏 季 賞 与			冬 季 賞 与		
	支 給 額		支 給 月 数(注)	支 給 額		支 給 月 数(注)	支 給 額		支 給 月 数(注)	支 給 額		支 給 月 数(注)
	実 数	前 年 比		実 数	前 年 比		実 数	前 年 比		実 数	前 年 比	
円	%	月分	円	%	月分	円	%	月分	円	%	月分	
調 査 産 業 計	398,261	16.4	1.15	339,222	△ 3.8	1.15	454,152	3.1	1.13	458,374	3.7	1.18
飲 業, 採 石 業 等	-	-	-	-	-	-	962,686	23.5	1.99	883,850	5.8	1.89
建 設 業	790,147	31.8	1.62	753,415	50.8	1.61	713,347	3.1	1.47	697,486	△ 0.2	1.46
製 造 業	483,213	43.2	1.14	275,831	△ 32.3	0.96	583,105	7.1	1.23	573,162	3.0	1.28
電 気・ガ ス 業	x	x	x	x	x	x	828,553	△ 11.1	1.77	846,985	△ 1.5	1.84
情 報 通 信 業	900,790	5.2	2.02	878,847	8.7	2.00	730,347	2.9	1.59	709,513	0.1	1.58
運 輸 業, 郵 便 業	209,514	△ 27.8	0.60	204,952	△ 28.6	0.68	402,886	18.8	1.02	409,372	17.2	1.06
卸 売 業, 小 売 業	236,596	△ 7.7	0.97	255,356	△ 0.5	1.20	429,470	2.8	1.07	439,294	11.6	1.10
金 融 業, 保 険 業	817,685	4.1	2.09	601,953	△ 0.0	1.65	726,088	△ 0.8	1.70	689,330	△ 0.1	1.62
不 動 産・物 品 賃 貸 業	220,151	62.2	1.02	168,675	26.7	0.76	577,605	3.3	1.34	619,725	8.3	1.37
学 術 研 究 等	611,262	△ 30.3	1.69	620,139	△ 8.9	1.72	785,772	△ 0.2	1.57	731,456	4.2	1.61
飲 食 サ ー ビ ス 業 等	27,766	△ 33.7	0.26	61,964	△ 17.6	0.54	77,017	46.5	0.36	94,151	57.5	0.42
生 活 関 連 サ ー ビ ス 等	130,149	x	0.59	68,965	x	0.44	166,517	17.8	0.63	186,618	40.8	0.73
教 育, 学 習 支 援 業	662,331	8.2	1.95	691,419	4.0	2.07	574,952	0.7	1.71	608,787	0.8	1.81
医 療, 福 祉	326,297	1.8	1.17	361,192	5.5	1.19	319,618	△ 3.2	0.94	361,730	△ 2.2	1.10
複 合 サ ー ビ ス 事 業	x	x	x	x	x	x	386,327	△ 4.9	1.32	408,759	△ 3.1	1.41
そ の 他 の サ ー ビ ス 業	121,646	1.2	0.83	113,063	△ 1.4	0.74	197,207	1.2	0.83	187,357	△ 0.2	0.83

注1：支給月数(対きまって支給する給与)を指す。

注2：生活関連サービス等において、前年実数が秘匿であったため前年比を秘匿としている。

第6図 産業別にみた賞与支給状況(事業所規模30人以上)支給額

注：電気・ガス業及び複合サービス事業は秘匿のため値なし



Ⅲ-1 労働時間の動き

-事業所規模5人以上- (第6表、第7,8-1図)

香川県における事業所規模5人以上の実労働時間を調査産業計で見ると、総実労働時間は139.3時間で前年比2.3%の減少となった。総実労働時間の内訳をみると、所定内労働時間が128.9時間で前年比2.9%の減少、所定外労働時間は10.4時間で前年比6.2%の増加となった。

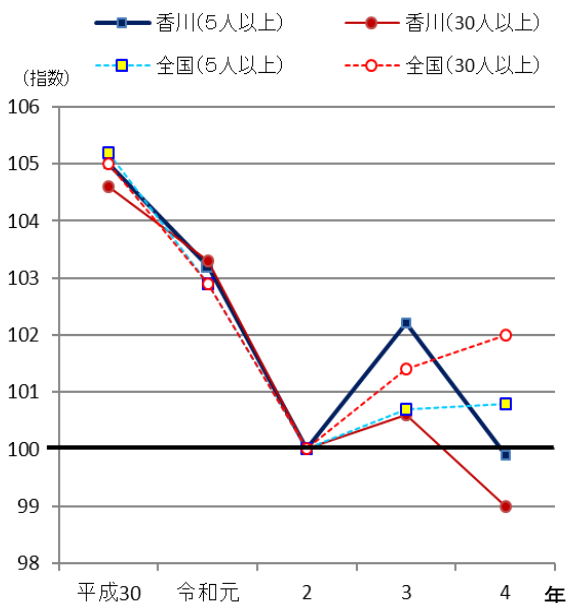
全国の総実労働時間は136.1時間で前年比0.1%の増加となった。このうち、所定内労働時間は126.0時間で前年比0.3%の減少、所定外労働時間は10.1時間で前年比4.6%の増加となった。

第6表 労働時間の推移 (調査産業計：事業所規模5人以上)

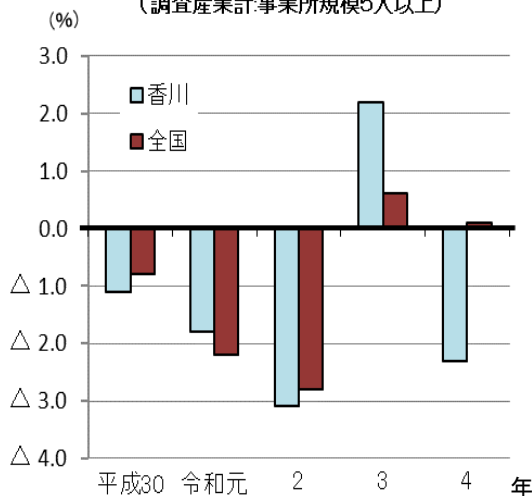
区分	年	総実労働時間			所定内労働時間			所定外労働時間			出勤日数 日	年間総 実労働 時間 時間
		実数 時間	指数	前年比 %	実数 時間	指数	前年比 %	実数 時間	指数	前年比 %		
香 川 県	平成30	146.5	105.0	△ 1.1	134.7	103.0	△ 1.9	11.8	136.9	9.0	18.9	1,758.0
	令和元	143.9	103.2	△ 1.8	133.0	101.7	△ 1.2	10.9	127.0	△ 7.2	18.6	1,726.8
	2	139.4	100.0	△ 3.1	130.8	100.0	△ 1.6	8.6	100.0	△ 21.3	18.4	1,672.8
	3	142.4	102.2	2.2	132.6	101.4	1.5	9.8	113.7	13.7	18.5	1,708.8
	4	139.3	99.9	△ 2.3	128.9	98.5	△ 2.9	10.4	120.8	6.2	18.3	1,671.6
全 国	平成30	142.2	105.2	△ 0.8	131.4	104.4	△ 0.8	10.8	117.5	△ 1.5	18.4	1,706.4
	令和元	139.1	102.9	△ 2.2	128.5	102.0	△ 2.2	10.6	115.1	△ 1.9	18.0	1,669.2
	2	135.1	100.0	△ 2.8	125.9	100.0	△ 2.0	9.2	100.0	△ 13.2	17.7	1,621.2
	3	136.1	100.7	0.6	126.4	100.4	0.4	9.7	105.2	5.1	17.7	1,633.2
	4	136.1	100.8	0.1	126.0	100.1	△ 0.3	10.1	110.0	4.6	17.6	1,633.2

(指数：令和2年平均=100)

第7図 総実労働時間指数の推移 (調査産業計)
(令和2年=100)



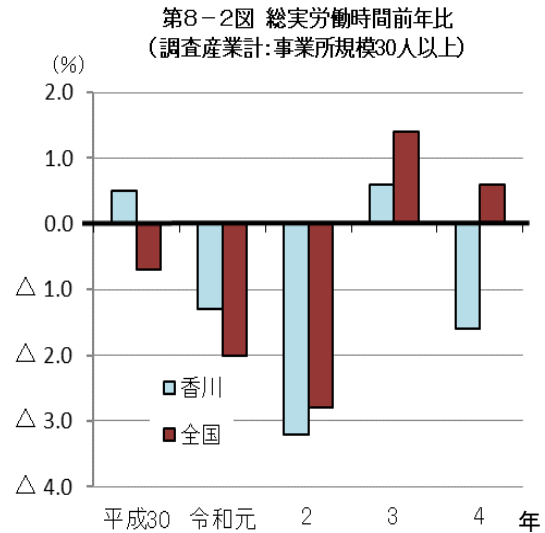
第8-1図 総実労働時間前年比
(調査産業計・事業所規模5人以上)



-事業所規模 30 人以上- (第7表、第7,8-2図)

香川県における事業所規模 30 人以上の実労働時間を調査産業計でみると、総実労働時間は 142.5 時間で前年比 1.6%の減少となった。総実労働時間の内訳をみると、所定内労働時間が 131.0 時間で前年比 1.8%の減少、所定外労働時間は 11.5 時間で前年比 1.9%の増加となった。

全国の総実労働時間は 143.2 時間で前年比 0.6%の増加となった。このうち、所定内労働時間は 131.0 時間で前年比 0.2%の増加、所定外労働時間は 12.2 時間で前年比 5.2%の増加となった。



第7表 労働時間の推移 (調査産業計:事業所規模30人以上)

区分	年	総実労働時間			所定内労働時間			所定外労働時間			出勤日数 日	年間総実労働時間 時間
		実数 時間	指数	前年比 %	実数 時間	指数	前年比 %	実数 時間	指数	前年比 %		
香川県	平成30	150.5	104.6	0.5	137.6	103.0	△ 0.4	12.9	127.0	12.3	19.0	1,806.0
	令和元	148.8	103.3	△ 1.3	135.8	101.5	△ 1.4	13.0	127.4	0.3	18.7	1,785.6
	2	143.9	100.0	△ 3.2	133.7	100.0	△ 1.5	10.2	100.0	△ 21.5	18.5	1,726.8
	3	144.7	100.6	0.6	133.4	99.8	△ 0.2	11.3	110.9	10.9	18.4	1,736.4
	4	142.5	99.0	△ 1.6	131.0	98.0	△ 1.8	11.5	113.0	1.9	18.3	1,710.0
全国	平成30	147.4	105.0	△ 0.7	134.9	104.1	△ 0.6	12.5	116.2	△ 1.1	18.6	1,768.8
	令和元	144.4	102.9	△ 2.0	132.0	101.9	△ 2.1	12.4	115.1	△ 1.0	18.2	1,732.8
	2	140.4	100.0	△ 2.8	129.6	100.0	△ 1.7	10.8	100.0	△ 13.1	17.9	1,684.8
	3	142.4	101.4	1.4	130.8	100.9	0.8	11.6	107.4	7.4	18.0	1,708.8
	4	143.2	102.0	0.6	131.0	101.1	0.2	12.2	113.0	5.2	17.9	1,718.4

注: 全国における令和元年の値については、修正があったため最新の値に更新している。

(指数: 令和2年平均=100)

Ⅲ-2 産業別にみた労働時間

-事業所規模5人以上 - (第8表、第9-1図)

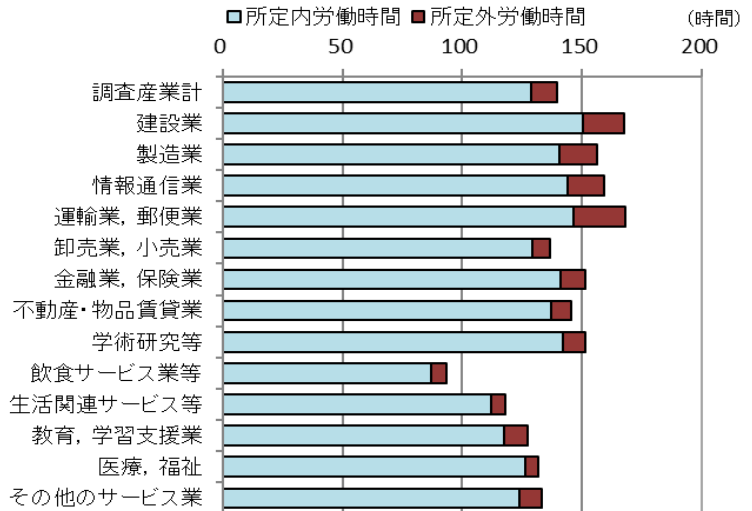
香川県における事業所規模5人以上の実労働時間を産業別にみると、総実労働時間は「運輸業、郵便業」(前年比9.2%増)など3産業が増加し、「教育、学習支援業」(前年比10.2%減)など10産業が減少した。

所定内労働時間は、「運輸業、郵便業」(前年比7.0%増)など4産業が増加し、「教育、学習支援業」(前年比8.9%減)など9産業が減少した。

所定外労働時間は、「医療、福祉」(前年比32.7%増)など7産業が増加し、「不動産・物品賃貸業」(前年比29.1%減)などの6産業が減少した。

第9-1図 産業別にみた労働時間の内訳(事業所規模5人以上)

注:電気・ガス業及び複合サービス事業は秘匿のため値なし



第8表 産業別に見た労働時間(事業所規模5人以上)

産 業	総実労働時間		所定内労働時間				所定外労働時間				出勤日数		年間総実労働時間
	実数	前年比	実数		前年比		実数		前年比		実数	前年差	
			時間	%	時間	%	時間	%	日	日			
調査産業計	139.3	△ 2.3	128.9	△ 2.9	10.4	6.2	18.3	△ 0.2	1,671.6				
鉱業、採石業等	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
建設業	167.5	△ 3.3	150.5	△ 6.0	17.0	27.3	20.0	△ 0.9	2,010.0				
製造業	156.1	△ 0.4	140.5	△ 2.3	15.6	21.9	19.1	△ 0.1	1,873.2				
電気・ガス業	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
情報通信業	159.0	△ 2.2	143.9	△ 1.1	15.1	△ 11.5	19.2	△ 0.2	1,908.0				
運輸業、郵便業	167.9	9.2	146.2	7.0	21.7	27.1	20.0	1.1	2,014.8				
卸売業、小売業	136.5	△ 4.7	129.3	△ 3.8	7.2	△ 18.8	18.9	0.0	1,638.0				
金融業、保険業	151.2	△ 0.5	140.8	△ 0.2	10.4	△ 4.6	18.8	△ 0.3	1,814.4				
不動産・物品賃貸業	145.2	△ 3.8	137.0	△ 1.7	8.2	△ 29.1	18.8	0.0	1,742.4				
学術研究等	151.5	2.5	142.1	2.0	9.4	11.0	18.9	0.2	1,818.0				
飲食サービス業等	93.3	3.2	87.0	2.3	6.3	17.4	15.3	0.5	1,119.6				
生活関連サービス等	117.8	△ 0.2	111.9	△ 1.0	5.9	19.0	16.4	0.3	1,413.6				
教育、学習支援業	127.0	△ 10.2	117.6	△ 8.9	9.4	△ 23.1	16.8	△ 1.1	1,524.0				
医療、福祉	131.6	△ 3.5	126.4	△ 4.5	5.2	32.7	17.6	△ 0.8	1,579.2				
複合サービス事業	x	x	x	x	x	x	x	x	x				
その他のサービス業	133.2	△ 0.5	123.7	1.0	9.5	△ 16.2	18.0	△ 0.1	1,598.4				
調査産業計	136.1	0.1	126.0	△ 0.3	10.1	4.6	17.6	△ 0.1	1,633.2				
鉱業、採石業等	160.0	△ 2.5	148.9	△ 2.4	11.1	△ 3.8	20.2	△ 0.1	1,920.0				
建設業	163.5	△ 1.1	149.7	△ 1.2	13.8	0.0	20.0	△ 0.3	1,962.0				
製造業	156.6	0.4	142.2	0.0	14.4	6.2	18.8	0.0	1,879.2				
電気・ガス業	154.0	△ 0.8	139.5	△ 0.9	14.5	△ 0.2	18.5	△ 0.2	1,848.0				
情報通信業	156.1	△ 1.5	140.4	△ 1.7	15.7	1.2	18.5	△ 0.2	1,873.2				
運輸業、郵便業	165.0	0.9	142.4	0.7	22.6	2.4	19.2	0.0	1,980.0				
卸売業、小売業	130.6	△ 0.2	123.2	△ 0.5	7.4	4.2	17.8	△ 0.1	1,567.2				
金融業、保険業	144.5	△ 1.1	132.5	△ 1.5	12.0	2.7	18.1	△ 0.3	1,734.0				
不動産・物品賃貸業	146.0	△ 0.6	134.8	△ 0.5	11.2	△ 1.9	18.5	0.0	1,752.0				
学術研究等	153.2	△ 0.3	139.6	△ 0.2	13.6	△ 0.7	18.5	△ 0.1	1,838.4				
飲食サービス業等	89.5	7.0	84.8	5.6	4.7	43.8	13.9	0.3	1,074.0				
生活関連サービス等	123.7	3.8	117.5	3.1	6.2	16.4	17.1	0.5	1,484.4				
教育、学習支援業	121.1	0.1	111.4	△ 0.4	9.7	5.1	16.0	△ 0.1	1,453.2				
医療、福祉	129.4	△ 0.7	124.4	△ 1.2	5.0	10.3	17.4	△ 0.3	1,552.8				
複合サービス事業	146.1	△ 1.2	137.2	△ 1.6	8.9	7.3	18.5	△ 0.4	1,753.2				
その他のサービス業	138.1	0.7	127.4	0.2	10.7	6.1	17.8	△ 0.1	1,657.2				

-事業所規模 30 人以上- (第9表、第9-2図)

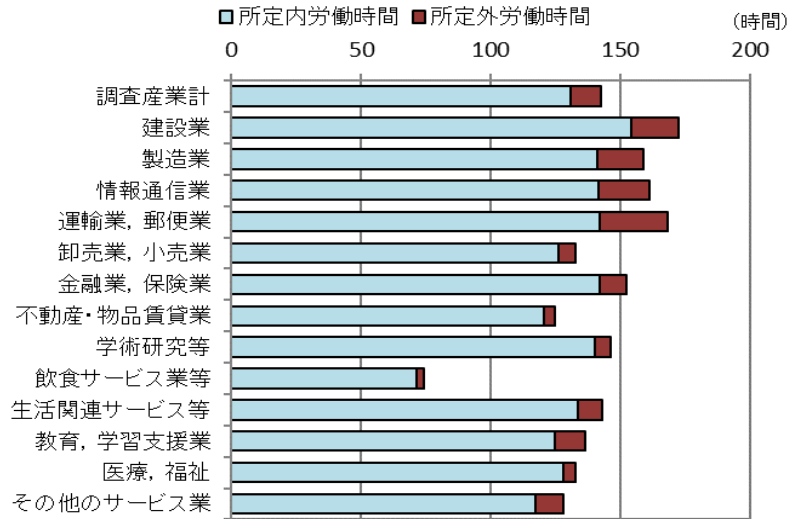
香川県における事業所規模 30 人以上の実労働時間を産業別にみると、総実労働時間は「生活関連サービス等」(前年比 31.3%増) など4 産業が増加し、「教育, 学習支援業」(前年比 18.5%減) など8 産業が減少した。

所定内労働時間は、「生活関連サービス等」(前年比 28.2%増) など6 産業が増加し、「飲食サービス業等」(前年比 19.2%減) など7 産業が減少した。

所定外労働時間は、「生活関連サービス等」(前年比 97.7%増) など8 産業が増加し、「教育, 学習支援業」(前年比 49.0%減) など5 産業が減少した。

第9-2図 産業別にみた労働時間の内訳(事業所規模30人以上)

注: 電気・ガス業及び複合サービス事業は秘匿のため値なし



第9表 産業別に見た労働時間 (事業所規模30人以上)

産 業	総実労働時間						出勤日数		年間総実労働時間
	実数		前年比		実数		前年差		
	時間	%	時間	%	時間	%	日	日	
調査産業計	142.5	△ 1.6	131.0	△ 1.8	11.5	1.9	18.3	△ 0.1	1,710.0
鉱業, 採石業等	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	172.7	△ 2.2	154.3	△ 3.1	18.4	6.1	20.1	△ 0.7	2,072.4
製造業	158.7	△ 0.7	141.3	△ 1.0	17.4	17.8	19.0	0.2	1,904.4
電気・ガス業	x	x	x	x	x	x	x	x	x
情報通信業	161.1	△ 1.1	141.6	△ 1.8	19.5	5.1	19.2	△ 0.1	1,933.2
香 運輸業, 郵便業	168.4	8.5	142.0	5.2	26.4	30.3	20.0	1.4	2,020.8
川 卸売業, 小売業	132.7	0.0	126.2	0.1	6.5	△ 2.9	18.9	0.4	1,592.4
金融業, 保険業	152.6	△ 2.8	142.2	0.9	10.4	△ 35.5	19.0	0.1	1,831.2
県 不動産・物品賃貸業	124.8	3.3	120.6	2.2	4.2	43.4	17.2	△ 0.2	1,497.6
学術研究等	146.4	△ 2.5	140.2	△ 0.8	6.2	△ 29.3	18.5	△ 0.6	1,756.8
飲食サービス業等	74.2	△ 18.4	71.3	△ 19.2	2.9	9.5	12.8	△ 1.1	890.4
生活関連サービス等	142.9	31.3	133.6	28.2	9.3	97.7	18.5	3.5	1,714.8
教育, 学習支援業	136.3	△ 18.5	124.6	△ 13.6	11.7	△ 49.0	17.5	△ 1.7	1,635.6
医療, 福祉	132.8	△ 3.4	128.0	△ 3.8	4.8	5.4	17.4	△ 0.8	1,593.6
複合サービス事業	x	x	x	x	x	x	x	x	x
その他のサービス業	128.0	△ 0.7	117.1	0.2	10.9	△ 9.8	17.8	△ 0.2	1,536.0
全 調査産業計	143.2	0.6	131.0	0.2	12.2	5.2	17.9	△ 0.1	1,718.4
製造業	159.3	0.1	143.3	△ 0.3	16.0	4.3	18.7	△ 0.1	1,911.6
卸売業, 小売業	135.2	0.4	126.9	0.1	8.3	4.5	18.1	△ 0.1	1,622.4
医療, 福祉	137.5	△ 1.1	131.4	△ 1.5	6.1	9.4	17.9	△ 0.3	1,650.0

IV-1 雇用の動き

-事業所規模5人以上- (第10表、第10, 11-1, 12図)

香川県における事業所規模5人以上の常用労働者数は349,122人、常用雇用指数は100.1で、前年比1.3%の増加となった。パートタイム労働者比率は32.0%で、前年差2.0ポイントの上昇となった。

次に、労働異動率をみると、入職率は2.09%、離職率は1.96%で、0.13ポイントの入職超過となった。

全国の常用労働者数は51,342千人で、前年比0.9%の増加となった。パートタイム労働者比率は31.6%で、前年差0.3ポイントの上昇となった。入職率は2.05%、離職率は1.98%で、0.07ポイントの入職超過となった。

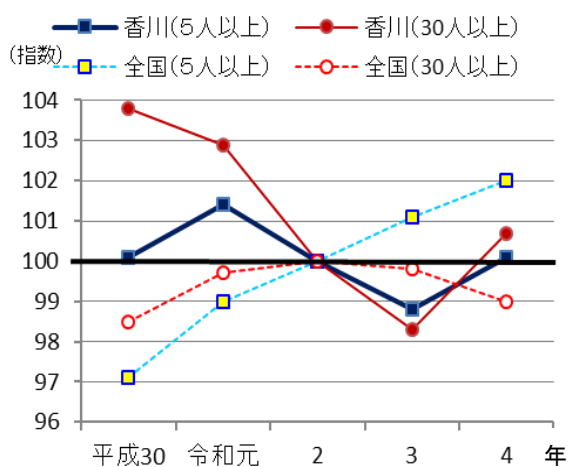
第10表 雇用の推移 (調査産業計：事業所規模5人以上)

区分	年	常用労働者					労働異動率				
		実数	指数	前年比	パートタイム労働者比率	前年差	入職率	前年差	離職率	前年差	
香川県	平成30	341,591	100.1	0.8	28.5	△ 0.2	1.85	△ 0.16	1.87	0.05	
	令和元	346,102	101.4	1.3	29.3	0.8	2.07	0.22	1.85	△ 0.02	
	2	341,295	100.0	△ 1.3	31.6	2.3	1.78	△ 0.29	1.82	△ 0.03	
	3	336,980	98.8	△ 1.3	30.0	△ 1.6	1.47	△ 0.31	1.62	△ 0.20	
	4	349,122	100.1	1.3	32.0	2.0	2.09	0.62	1.96	0.34	
全国	平成30	49,813	97.1	1.1	30.9	0.2	2.11	△ 0.04	2.02	△ 0.02	
	令和元	50,784	99.0	2.0	31.5	0.7	2.16	0.05	2.06	0.04	
	2	51,299	100.0	1.0	31.1	△ 0.4	1.97	△ 0.19	1.98	△ 0.08	
	3	51,893	101.1	1.2	31.3	0.2	1.96	△ 0.01	1.93	△ 0.05	
	4	51,342	102.0	0.9	31.6	0.3	2.05	0.09	1.98	0.05	

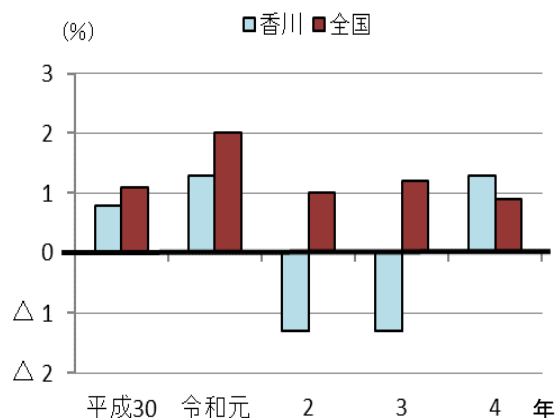
注：全国における令和元年の値については、修正があったため最新の値に更新している。

(指数：令和2年平均=100)

第10図 雇用指数の推移(調査産業計)
(令和2年=100)



第11-1図 雇用指数対前年比
(調査産業計事業所規模5人以上)



-事業所規模 30 人以上- (第 11 表、第 10, 11-2, 12 図)

香川県における事業所規模 30 人以上の常用労働者数は 190,237 人、常用雇用指数は 100.7 で、前年比 2.4%の増加となった。パートタイム労働者比率は 27.7%で、前年差 0.3 ポイントの低下となった。

次に、労働異動率をみると、入職率は 1.78%、離職率は 1.73%で 0.05 ポイントの入職超過となった。

全国における常用労働者数は 29,317 千人で、前年比 0.8%の減少となった。パートタイム労働者比率は 24.5%で、前年差 0.5 ポイントの低下となった。入職率は 1.86%、離職率は 1.83%で 0.03 ポイントの入職超過となった。

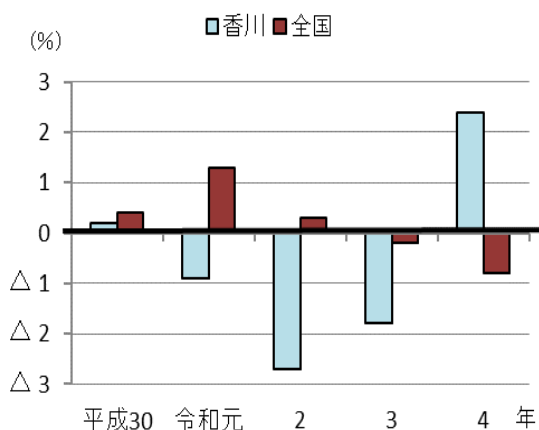
第11表 雇用の推移 (調査産業計：事業所規模30人以上)

区分	年	常用労働者					労働異動率			
		実数	指数	前年比	パートタイム労働者比率	前年差	入職率	前年差	離職率	前年差
香川県	平成30	192,134	103.8	0.2	24.6	△ 1.2	1.74	△ 0.12	1.73	0.00
	令和元	190,526	102.9	△ 0.9	24.7	0.1	1.77	0.03	1.70	△ 0.03
	2	185,229	100.0	△ 2.7	27.4	2.7	1.54	△ 0.23	1.59	△ 0.11
	3	181,967	98.3	△ 1.8	28.0	0.6	1.29	△ 0.25	1.53	△ 0.06
	4	190,237	100.7	2.4	27.7	△ 0.3	1.78	0.49	1.73	0.20
全国	平成30	29,163	98.5	0.4	25.1	0.0	1.88	△ 0.01	1.83	0.01
	令和元	29,510	99.7	1.3	25.6	0.5	1.96	0.08	1.88	0.05
	2	29,613	100.0	0.3	25.3	△ 0.3	1.77	△ 0.19	1.80	△ 0.08
	3	29,547	99.8	△ 0.2	25.1	△ 0.2	1.74	△ 0.03	1.78	△ 0.02
	4	29,317	99.0	△ 0.8	24.5	△ 0.5	1.86	0.12	1.83	0.05

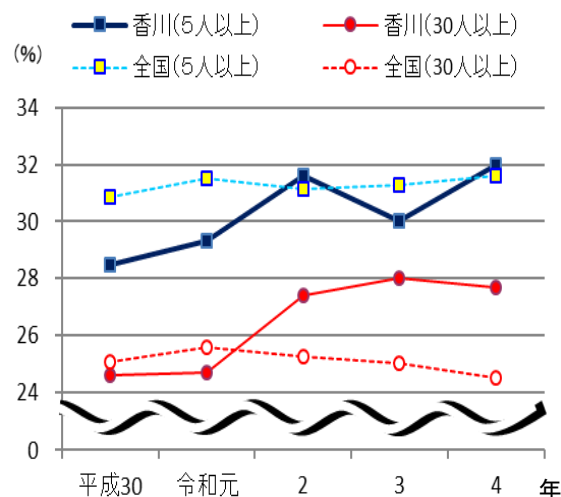
注：全国における令和元年の値については、修正があったため最新の値に更新している。

(指数：令和2年平均=100)

第11-2図 雇用指数対前年比 (調査産業計：事業所規模30人以上)



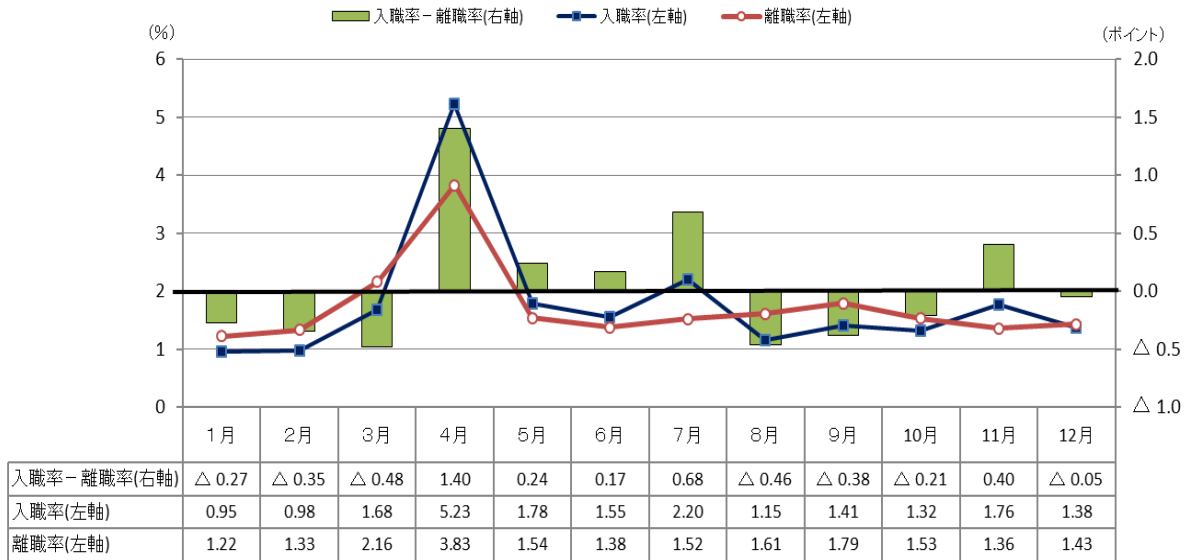
第12図 パートタイム労働者比率の推移 (調査産業計)



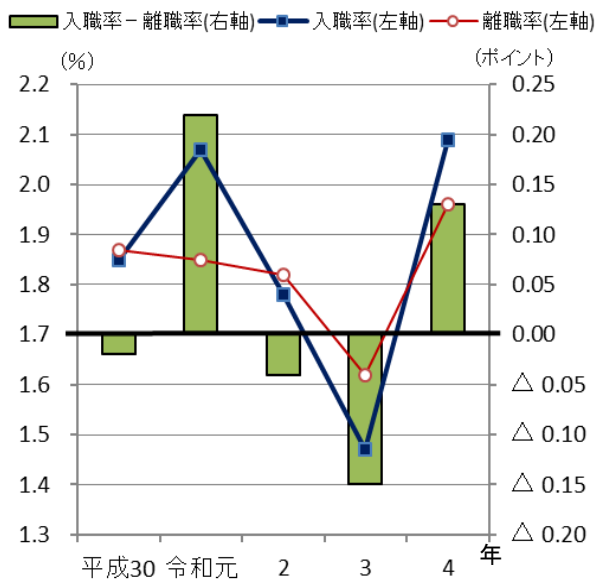
-労働異動率の推移 - (第 13, 14-1, 14-2図)

香川県における事業所規模 30 人以上の労働異動率の月別推移をみると、入職率は4月の 5.23%が最も高く、次いで7月の 2.20%が高かった。離職率は4月の 3.83%が最も高く、次いで3月の 2.16%が高かった。

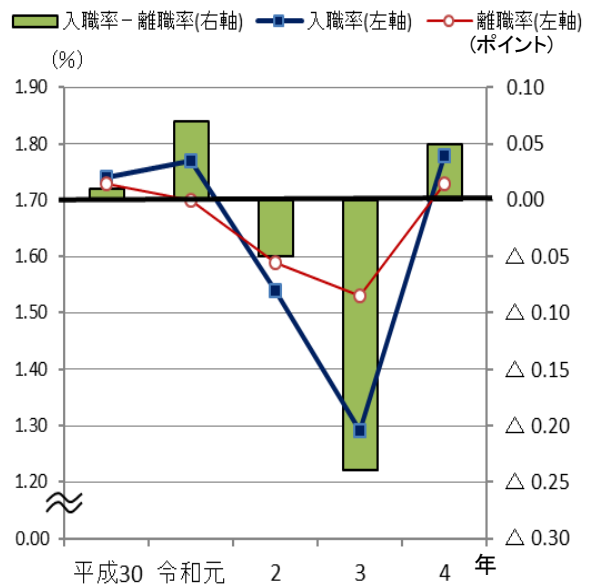
第13図 労働異動率の月別推移(調査産業計:事業所規模30人以上)



第14-1図 入職率・離職率の推移(調査産業計)
事業所規模5人以上



第14-2図 入職率・離職率の推移(調査産業計)
事業所規模30人以上



IV-2 産業別にみた雇用

-事業所規模5人以上- (第12, 13表、第15, 16図)

香川県における事業所規模5人以上の常用労働者を産業別にみると、構成割合は「卸売業，小売業」(65,439人、18.7%)が最も高く、次いで「医療，福祉」(62,330人、17.9%)、「製造業」(60,756人、17.4%)などとなった。

パートタイム労働者比率は、「飲食サービス業等」(76.6%)が最も高く、次いで、「生活関連サービス等」(61.0%)、「卸売業，小売業」(43.1%)などとなった。

労働異動率をみると、入職率では「飲食サービス業等」(5.06%)が最も高く、次いで、「生活関連サービス等」(4.04%)、「その他のサービス業」(2.42%)などとなった。離職率では「飲食サービス業等」(3.74%)が最も高く、次いで「生活関連サービス等」(3.35%)、「金融業，保険業」(2.44%)などとなった。

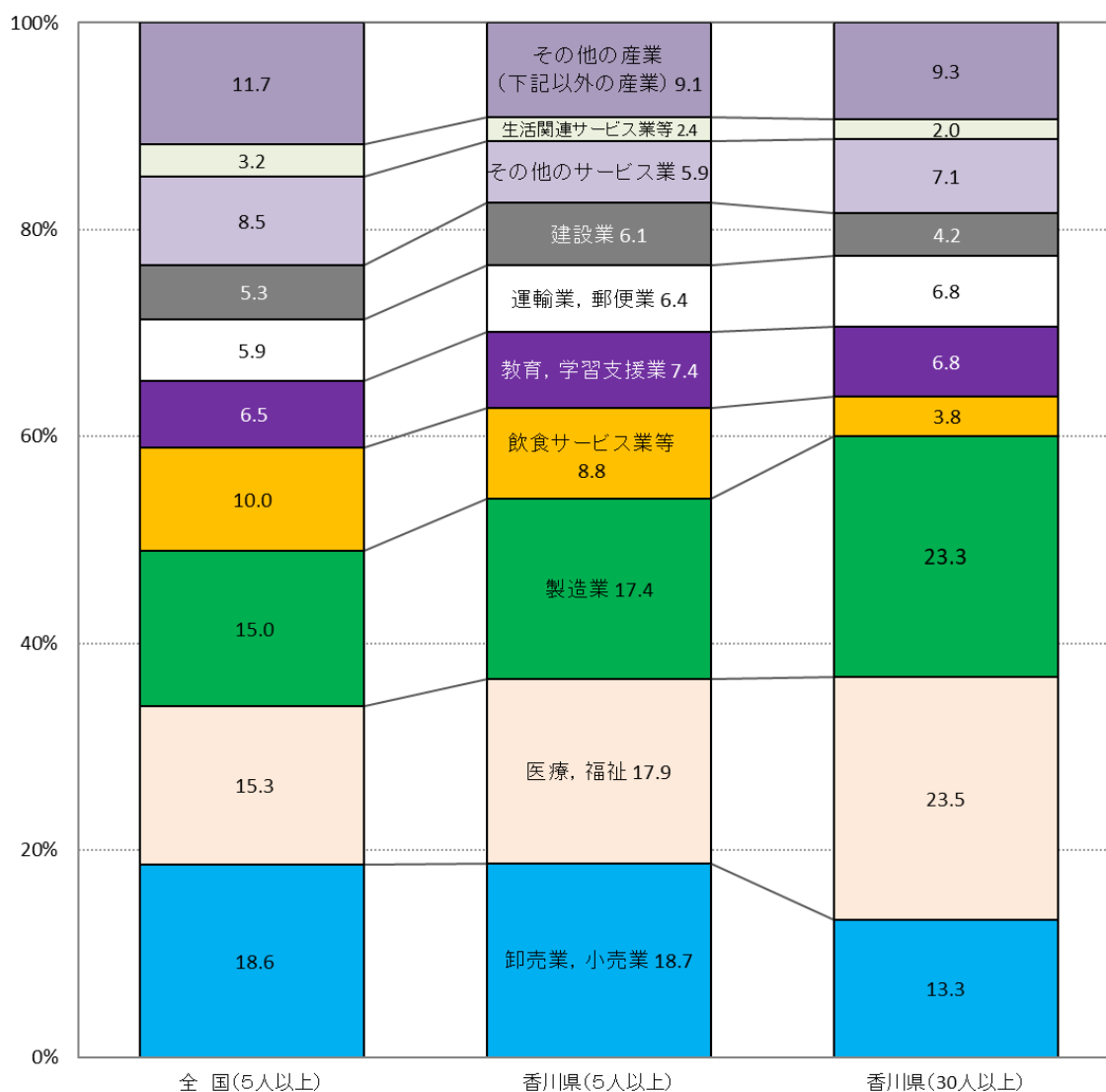
第12表 産業別に見た雇用（事業所規模5人以上）

産 業	常用労働者				労働異動率			
	実数	前年比	パートタイム労働者比率	前年差	入職率	前年差	離職率	前年差
	人	%	%	ポイント	%	ポイント	%	ポイント
調査産業計	349,122	1.3	32.0	2.0	2.09	0.62	1.96	0.34
鉱業，採石業等	-	-	-	-	-	-	-	-
建設業	21,239	4.2	6.8	3.0	1.28	0.37	0.90	0.03
製造業	60,756	5.9	15.7	3.4	1.13	0.23	1.08	△ 0.04
電気・ガス業	x	x	x	x	x	x	x	x
情報通信業	4,161	△ 2.6	3.2	0.8	2.16	0.43	2.04	△ 0.09
運輸業，郵便業	22,388	△ 5.9	19.6	△ 4.8	1.40	0.69	1.95	0.82
卸売業，小売業	65,439	△ 0.7	43.1	3.4	1.92	0.38	2.11	0.46
金融業，保険業	10,045	△ 1.5	11.8	3.9	2.26	0.86	2.44	1.15
不動産・物品賃貸業	3,953	△ 0.7	36.8	7.7	1.65	△ 0.10	1.31	△ 0.36
学術研究等	7,107	22.3	9.8	△ 2.0	1.03	△ 0.27	1.32	0.08
飲食サービス業等	30,688	6.3	76.6	1.2	5.06	1.52	3.74	0.54
生活関連サービス等	8,316	14.5	61.0	10.0	4.04	1.92	3.35	△ 0.22
教育，学習支援業	25,689	1.7	30.2	△ 4.6	2.13	0.91	1.95	0.67
医療，福祉	62,330	△ 0.8	32.6	1.6	1.95	0.47	1.87	0.28
複合サービス事業	x	x	x	x	x	x	x	x
その他のサービス業	20,433	△ 2.7	32.4	△ 1.6	2.42	0.65	2.24	0.22
	千人	%	%	ポイント	%	ポイント	%	ポイント
調査産業計	51,342	0.9	31.6	0.3	2.05	0.09	1.98	0.05
鉱業，採石業等	12	△ 11.7	2.6	0.5	0.87	△ 0.32	1.67	0.49
建設業	2,734	2.1	6.1	0.4	1.27	0.04	1.24	0.07
製造業	7,695	△ 0.8	13.6	0.1	1.10	0.06	1.10	△ 0.04
電気・ガス業	244	△ 0.4	5.0	0.5	1.31	0.13	1.41	0.07
情報通信業	1,595	0.0	6.8	1.3	1.73	0.26	1.67	0.22
運輸業，郵便業	3,041	△ 1.4	16.1	△ 0.3	1.41	0.11	1.51	0.09
卸売業，小売業	9,551	△ 0.7	42.3	0.0	1.84	△ 0.01	1.87	0.03
金融業，保険業	1,359	△ 1.8	11.1	0.1	1.65	△ 0.12	1.91	0.09
不動産・物品賃貸業	847	2.7	22.3	0.7	1.81	0.04	1.76	△ 0.09
学術研究等	1,561	0.5	10.4	0.2	1.41	0.04	1.32	△ 0.06
飲食サービス業等	5,125	7.5	76.8	△ 0.9	4.43	0.44	3.94	0.04
生活関連サービス等	1,620	△ 0.1	47.3	△ 0.1	2.75	0.28	2.67	△ 0.14
教育，学習支援業	3,314	△ 0.9	34.1	△ 0.8	2.58	△ 0.20	2.47	△ 0.16
医療，福祉	7,881	2.5	33.7	△ 0.1	1.76	△ 0.02	1.64	0.03
複合サービス事業	400	△ 5.8	17.8	0.5	1.66	0.13	2.10	0.40
その他のサービス業	4,362	1.8	30.0	△ 0.0	2.86	0.25	2.73	0.25

第13表 産業別にみた常用労働者の構成割合(%)

	全国 (5人以上)	香川県 (5人以上)	香川県 (30人以上)
鉱業，採石業等	0.0	-	-
建設業	5.3	6.1	4.2
製造業	15.0	17.4	23.3
電気・ガス業	0.5	x	x
情報通信業	3.1	1.2	1.5
運輸業，郵便業	5.9	6.4	6.8
卸売業，小売業	18.6	18.7	13.3
金融業，保険業	2.6	2.9	2.7
不動産・物品賃貸業	1.7	1.1	0.8
学術研究等	3.0	2.0	2.0
飲食サービス業等	10.0	8.8	3.8
生活関連サービス等	3.2	2.4	2.0
教育，学習支援業	6.5	7.4	6.8
医療，福祉	15.3	17.9	23.5
複合サービス事業	0.8	x	x
その他のサービス業	8.5	5.9	7.1

第15図 産業別にみた常用労働者の構成割合



-事業所規模 30 人以上 - (第 13, 14 表、第 15, 16 図)

香川県における事業所規模 30 人以上の常用労働者を産業別にみると、構成割合は「医療、福祉」(44,629 人、23.5%) が最も高く、次いで「製造業」(44,271 人、23.3%)、「卸売業、小売業」(25,321 人、13.3%) などとなった。

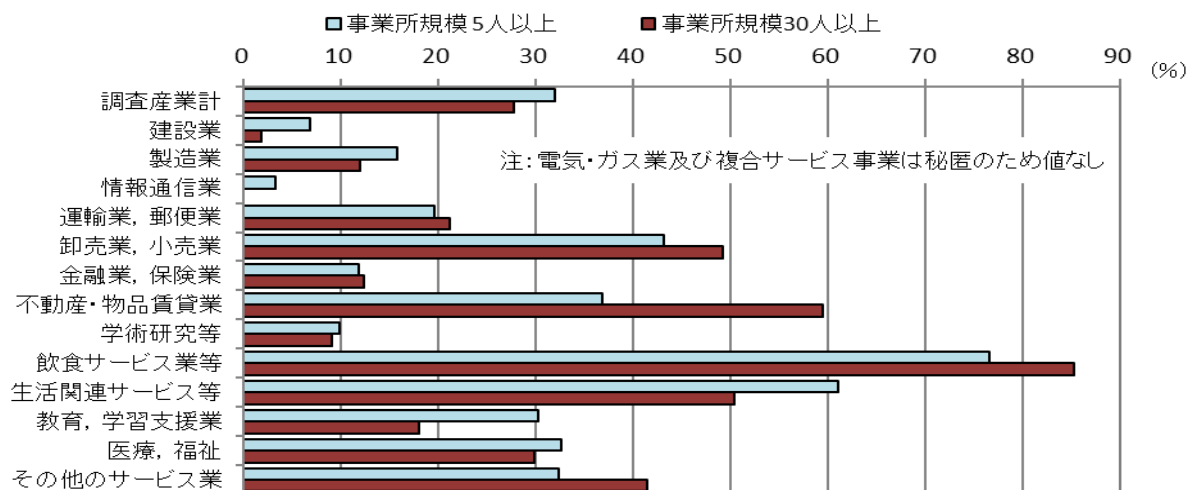
パートタイム労働者比率は、「飲食サービス業等」(85.3%) が最も高く、次いで、「不動産・物品賃貸業」(59.5%)、「生活関連サービス等」(50.4%) などとなった。

労働異動率をみると、入職率では「飲食サービス業等」(6.09%) が最も高く、次いで「生活関連サービス等」(4.68%)、「その他のサービス業」(2.89%) などとなった。離職率では、「飲食サービス業等」(4.96%) が最も高く、次いで「その他のサービス業」(2.67%)、「生活関連サービス等」(2.47%) などとなった。

第14表 産業別に見た雇用（事業所規模30人以上）

産 業	常用労働者					労働異動率			
	実数	前年比	パートタイム	前年差	入職率	前年差	離職率	前年差	
			労働者比率						
	人	%	%	ポイント	%	ポイント	%	ポイント	
調査産業計	190,237	2.4	27.7	△ 0.3	1.78	0.49	1.73	0.20	
鉱業，採石業等	-	-	-	-	-	-	-	-	
建設業	7,922	0.5	1.8	△ 1.6	1.25	0.30	1.25	0.12	
製造業	44,271	9.0	11.9	0.2	0.92	0.15	0.96	△ 0.11	
電気・ガス業	x	x	x	x	x	x	x	x	
情報通信業	2,850	△ 1.6	0.0	0.0	1.81	0.19	1.83	△ 0.03	
運輸業，郵便業	12,932	△ 4.1	21.2	△ 3.9	1.77	0.74	2.18	0.97	
卸売業，小売業	25,321	△ 1.8	49.2	△ 0.7	1.43	0.15	1.59	0.00	
金融業，保険業	5,125	0.3	12.3	1.3	1.85	1.10	1.50	0.45	
不動産・物品賃貸業	1,586	12.8	59.5	△ 8.0	1.34	△ 0.60	1.40	△ 0.54	
学術研究等	3,726	54.2	9.0	0.7	1.01	0.02	1.07	△ 0.14	
飲食サービス業等	7,171	2.1	85.3	13.9	6.09	3.45	4.96	1.99	
生活関連サービス等	3,863	39.6	50.4	△ 11.4	4.68	3.82	2.47	△ 0.07	
教育，学習支援業	13,001	2.3	18.0	△ 4.2	1.81	0.71	1.57	0.57	
医療，福祉	44,629	△ 1.0	29.9	1.4	1.82	0.30	1.81	0.21	
複合サービス事業	x	x	x	x	x	x	x	x	
その他のサービス業	13,434	△ 1.3	41.4	0.7	2.89	0.75	2.67	0.09	
全 国	千人	%	%	ポイント	%	ポイント	%	ポイント	
調査産業計	29,317	△ 0.8	24.5	△ 0.5	1.86	0.12	1.83	0.05	
製造業	5,779	△ 1.4	10.7	0.2	1.01	0.08	1.04	△ 0.03	
卸売業，小売業	4,142	△ 2.1	37.9	△ 2.1	1.59	△ 0.01	1.61	△ 0.04	
医療，福祉	4,733	1.3	26.0	0.2	1.61	0.05	1.58	0.11	

第16図 産業別パートタイム労働者比率



令和4年
香川県の賃金・労働時間及び雇用

令和5年10月印刷・発行

編集・発行 香川県政策部統計調査課
電話 (087) 832-3149

香川県ホームページ内 香川県統計情報データベース
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/tokei/rodo/working/index.html>
